

学位論文内容の要旨

学位申請者	王 湘榕 【比較社会文化学専攻 平成21年度生】	要 旨
論文題目	日中指示表現の対照 —二つの小説の翻訳を材料として—	<p>本研究は、日本語と中国語の指示詞について、特に小説における文脈指示の用法を収集し、その違いを明らかにしたものである。両言語における指示詞は、日本語においては「コ、ソ、ア」の3体系、中国語においては、“这、那”の2体系であるため、その対応関係は興味深いテーマである。本研究は、日本語の指示詞の研究の中で指摘されてきた、「解説・まとめ」、「視点遊離」、「中立指示」、「遥かな存在の指示」、「観念対象指示」などの指示詞の機能を手がかりに、一つの原本に対し、三つの翻訳がある小説（『ノルウェイの森』、『阿 Q 正伝』）を使い、訳本間で対応する指示詞に違いがあるかも含め、詳細に日中の指示詞の対応関係を調べている。</p> <p>その結果、日本語のソ形指示詞は、「中立指示」と「遥かな存在の指示」という二つの機能を持つため、それぞれ中国語の“这”形指示詞と“那”形指示詞に訳し分けられていること、中国語の“这”形指示詞は、「解説・まとめ」、「視点遊離」、「中立指示」という複数の機能を持ち、前者二つはコ形指示詞、後者一つはソ形指示詞に訳し分けられていること、“那”形指示詞も「遥かな存在の指示」、「観念対象指示」、「視点遊離」という複数の機能を持ち、前者一つはソ形指示詞、後者二つはア形指示詞に訳し分けられていることが明らかになった。さらに、三つの翻訳間で異なる指示詞が使われる場合を取り上げ、「コ」が“那”に対応する例の分析から、「視点遊離」の機能が日本語では「コ」系指示詞しか持たないのに対し、中国語では、“这、那”の双方が持つことを指摘した。また、一つの指示詞が、訳本によって異なる指示詞に訳される場合があるのは、指示詞の前後の文脈がよく似た内容について述べていたり、指示対象が時間的・心理的に小説の本来の筋から逸脱していたりするような場合であることも明らかにした。</p> <p>以上から、日本語の指示詞と中国語の指示詞の複雑な対応関係は、それぞれの指示詞の持つ複数の機能に基づいていること、文脈の特性が、一つの言語における指示詞が別の言語で異なる指示詞へ翻訳される可能性を生むことの二点を結論づけている。</p>
審査委員	(主査) 准教授 伊藤 さとみ	
	教授 高崎 みどり	
	教授 佐々木 泰子	
	准教授 野口 徹	
	准教授 山腰 京子	